平成２４年度地域教育力を高めるボランティアセミナーを実施しました

《12 月 13 日（木）～14 日（金）》

「人をつなげるボランティア活動」をテーマに、全国各地から 76 名の受講者が社研に集い、講義、事例研究、シンポジウム等を通してボランティアの役割や今後の在り方等について学びました。

12/13（木） 1 日目

基調講義

昭和女子大学コミュニケーションラーニングセンター長
興梠　寛

「地域におけるボランティア活動の意義」

「ボランティア学習とは、学校教育や社会教育において、ボランティア活動が持つ潜在的教育力を活用しながら、地域社会やグローバル社会の課題の解決のために貢献する環境を意図的・制度的に設定して行う、社会体験活動である」（講義レジュメより）という考え方を、様々な事例を交えながらご講義いただきました。

参加者の感想
記者時代の経験からのお話は、視野を広く物事を考えて活動していくことの大切さを学びました。「志は高く、活動のハードルは低く」という言葉が心に残りました。

事例発表

仙台市立長町中学校
主幹教諭
箕輪　丈広

なでしこ防災ネット
代表
吉田トシ子

「防災・減災教育について考える」

全国でも初めての防災主幹教諭という職の役割と地域連携について、仙台市の箕輪先生から、そして、女性の視点で防災のまちづくりを目指しボランティア活動をされている吉田氏から事例発表をしていただきました。

参加者の感想
ボランティアとの連携・協働に向けたアイディアや考え方がとても参考になりました。市民目線・女性目線から防災を考えることで日常生活に必要な支援が見えてくるように感じました。

情報交換

「地域のボランティア活動の現状と課題」

ワールド・カフェの手法を用いて、「ボランティア活動に対する支援について」「ボランティア活動を推進する上での課題」「活動への参加を促す工夫」の３つのテーマについて意見交換を行いました。

参加者の感想
他の自治体の話を知ることができて悩みや現状の共有ができよかったです。職種は様々だが、基本的な悩みは共通しているように感じました。意見交換から元気をもらうことができました。

12/14（金）
２日目

シンポジウム

「これからの地域社会とボランティア」

～人をつなぐためには何が必要か～

【コーディネーター】
天野　和彦　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授

【登壇者】
野村　浩一　富士ゼロックスＣＳＲ部企画グループ長
多田　一彦　ＮＰＯ法人遠野まごころネット理事長
森　真理子　岡山市福田公民館長

企業、ＮＰＯ法人、社会教育施設職員というそれぞれの立場からの実践を発表いただきました。
野村氏からは、企業の研修でボランティアに参加した社員が戻ってから自分自身で活動に参加するようになるなどの変化が見られたという発表。
多田氏からは、ボランティア活動をしているというのではなく、動くことが当たり前という感覚で活動していたという実践事例。
森氏からは、学校を支援するために公民館が様々な取組を実施し、それに地域の方にボランティアとして参加していただく仕組みづくりの事例を発表いただきました。
天野氏から、「ボランティアの必要性」、「ボランティア活動の意義」などを話題として提案いただき、参加者とともに考えるシンポジウムとなりました。

参加者の感想
企業の内情、取組がよくわかって大変興味深かったです。民間の取組の方が大変スピーディで効果的だと思いました。行政のやり方に反省する点が見つかりました。ボランティアの現場と人のつながり、つなぎ方など多くの実体験を聞くことができ有益でした。社会教育の立場から、現場でのたくさんのお話を聞けて参考になりました。上手なコーディネートでわかりやすいシンポジウムでした。

特別講演

愛媛大学名誉教授　讃岐　幸治

「地域を豊かにするボランティアの役割」
「地域とは」ということを皮切りに、ボランティア活動の考え方や行政がやるべきことなどについてご講義をいただきました。講義の中で、ボランティア活動を仕組んでいくためのあ・い・う・え・お
「遊び心で」「粋な生き方」「浮き沈みは当たり前」
「笑顔で」「おもいやり」という言葉や、ボランティア活動を組織的に行うためのか・き・く・け・こなど事例を交えながらご講義いただきました。

参加者の感想
素直な言葉で難しく考えがちな内容を平易にわかりやすく解きほぐしていただけたような感じがしました。キーワードをもとにボランティア活動、地域づくりの基本をお話いただけたように思います。自分の考え方を整理することができました。行政職員だけでなく市民が学ぶにも必要な内容であると感じました。
できることからやってみようと思いました。

～講座における、学びとつながりが、各地域で活かされますように～